



# Irving Penn

## A Career in Photography

東京都写真美術館総合開館5周年記念  
恵比寿ガーデンプレイス5周年記念

アーヴィング・ペン全仕事

1999年11月11日[木]ー2000年1月23日[日]

開館時間:10:00ー18:00(木・金曜日は20:00まで)入館は閉館の30分前まで  
休館日:毎週月曜日および12月28日ー1月4日

東京都写真美術館 2階企画展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 電話03-3280-0031  
NTTハローダイヤル03-3272-8600 <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

主催:東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社

後援:アメリカ大使館 助成:国際交流基金

協賛: /HI/EIDO/ 株式会社 東芝 /株式会社 ニコン

協力:サッポロビール/日本航空/東武鉄道/プロラボ・ダック

(This Exhibition has been organized by The Art Institute of Chicago)

観覧料:一般600(480)円/学生480円/小・中・高校生300(240)円

常設展との共通観覧料:一般1000(800)円/学生800円/

小・中・高校生500(400)円( )内は20名以上の団体料金

都内の小・中学生は常設展の観覧は無料  
幼児、65歳以上の方、障害のある方とその介護者は無料になります(証明できるものをお持ちください)  
学生の方は学生証をご提示ください

アメリカの誇る偉大な写真家、アーヴィング・ペンの50年以上にわたる写真家としてのキャリアの全貌を探る展覧会です。この展覧会はペン本人からシカゴ美術館に寄贈された作品を中心に、未発表作品も含む130点で構成されています。1997年末にシカゴ美術館で開催されて大好評を博し、国際巡回展として世界の主要美術館で公開されています。日本では東京都写真美術館のみの開催となります。

アーヴィング・ペンは1917年、ニュージャージー州に生まれました。フィラデルフィア美術大学在学中から、高名なアート・ディレクターであるアレクセイ・プロドヴィッチの下で『ハーバース・パザール』誌で働きました。初めて同誌に掲載された靴のイラストの原稿料でペンはローライフレックス・カメラを購入し、ニューヨークの街を撮り始めました。卒業後、フリーランスの時期を経て、グラフィック・アーティストとしてサックス・フィフス・アヴェニューでプロドヴィッチと共に働き、その後、メキシコで絵画に没頭した1年間を過ごした後、これも才気煥発なアート・ディレクターのアレグザンダー・リーバーマンに誘われ、1943年、彼のアシスタントとして『ヴォーグ』誌で働くことになりました。

ペンが写真家としてのキャリアを築き始めるのは、『ヴォーグ』誌で働き始めてすぐのことでした。ペンはリーバーマンから『ヴォーグ』誌の表紙のディレクションを任せられ、様々なアイデアを捻出し、当時の『ヴォーグ』誌の写真家たちに提案しました。ホルスト・P.ホルストやアーウィン・ブリューメンフェルド、セシル・ビートン等々、ファッション写真史に名の輝く錚々たる写真家です。しかし彼らは若いアシスタントの相手をするには忙しすぎました。困ったペンが相談したリーバーマンの提案は、それではペン自身が撮影すればいいだろう、というものでした。ファッション写真家、アーヴィング・ペンの誕生です。

82歳の現在になってもまだ、写真家としての旺盛な活躍を展開しているペンの被写体は、静物、ファッション、有名人のポートレート、ヌード、ストリート、花、吸殻、アフリカやオーストラリアの少数民族の人々など多岐にわたっています。その一つ一つが他の誰の作

品とも紛うことないペン独自の世界に昇華されています。それがペンの作品を論じるときによく使われる「彼のライティング」であり、「彼の空間」です。

「彼のライティング」はファッション写真にペンが手を染めたごく初期の段階で生まれました。当時のファッション写真の主流は前述した写真家の作品のように、何らかのストーリーを喚起させるような、モデルがヒロインの大家がかりな舞台的演出にドラマティックな効果を狙ったライティングの写真でした。対してペンはタングステン・ライトを使い、ストーリーではなく、被写体そのものの持つ線や質感、色や形を際立たせて被写体の存在感を伝える、シンプルで洗練されたライティングを施しました。リーバーマンは後にこうしたペンの写真の特徴を「冴えた静謐感」と呼んでいます。

「彼の空間」と呼ばれるものは、「彼のライティング」よりももっと明白にペンの写真を特徴付けています。それは1948年に制作された初期のポートレートによく表されています。モデルになったのはトルーマン・カポーティでありマルセル・デュシャンでありジョージ・グロスでありオートクチュールを着たモデルたちであり、時代の寵児たちでした。彼らはペンのスタジオで一人、古びた二面の可動壁で囲まれた隅に押し込まれて窮屈そうに所在無げに立っています。なかには背景幕が途中で切れていたり、床にケーブルが見えたりする作品もあります。被写体の功績を示唆するような、例えば絵だとか本だとか机とかいった小道具は一切なく、時代の花形である彼らの存在と、具体的には例えば彼らが着ている高価な背広やオートクチュールと、ペンのスタジオの空間のそっけなきがゆえに好対照をなして、被写体の生の存在感を際立たせています。それは「孤独なポートレート」とでも呼んでもいいような、一種独特の高踏的なエレガンスを醸し出しています。このエレガンスは彼の最も有名なファッション写真だけではなく、ペンの全ての作品に共通しています。

エレガンスと信念を持って、常に写真の視覚を飽くことなく探究した完璧主義者、アーヴィング・ペンの世界を堪能してください。



表面:《ハーレクイン・ドレス(リサ・フォンサグリエス=ペン)、ニューヨーク》1950年  
Harlequin Dress (Lisa Fonssagrives-Penn), New York, 1950, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1950 (renewed 1978) by the Condé Nast Publications, Inc.  
①《瓶の中のひよこ、メキシコ》1942年  
Chicks in a Jar, Mexico, 1942, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1984 by Irving Penn  
②《タンブル族の戦士、ニューギニア》1970年  
Tambul Warrior, New Guinea, 1970, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1974 by Irving Penn, courtesy of Vogue  
③《ネットを纏った若い女(三宅一生デザイン)、ニューヨーク》1993年  
Young Woman in a Net (Miyake Design), New York, 1993, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1993 Irving Penn

④《煙突掃除夫、ロンドン》1950年  
Chimney Sweep, London, 1950, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1951 by the Condé Nast Publications, Inc.  
⑤《アナイス・ニン、ニューヨーク》1971年  
Anais Nin, New York, 1971, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1971 by the Condé Nast Publications, Inc.  
⑥《ライオンの頭蓋骨、プラハ》1986年  
Lion Skull, Prague, 1986, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1986 by Irving Penn  
⑦《トルーマン・カポーティ、ニューヨーク》1965年  
Truman Capote, New York, 1965, Gift of Irving Penn, The Art Institute of Chicago  
© 1965 (renewed 1993) by the Condé Nast Publications, Inc.

■講演会:11月12日(金)18:00ー20:00(聴講無料・先着200名様)

講師=コリン・ウェスターベック(シカゴ美術館キュレーター) テーマ=アーヴィング・ペン全仕事 会場=1Fホール

■東京都写真美術館提供・TOKYO FM特別番組:11月28日(日)

「東京写真物語」公開録音第9回「ファッションの季節」開場=13:30 開演=14:00 会場=1Fホール

出演=桃井かおり、新井満、手島里華 他

観覧ご希望の方はハガキに住所、氏名、年令、職業を明記のうえ「写真物語係」まで(11月15日必着)

■フロア・レクチャー:

毎月第2・4金曜日午後2時より当館学芸員によるフロア・レクチャーを行ないます

■次回企画展のご案内:

「さよなら20世紀ーカメラがとらえた日本の100年」展

2000年3月22日(水)ー5月26日(金)



JR恵比寿駅より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)  
\*お車でのご来館はご遠慮ください



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 電話03-3280-0031  
NTTハローダイヤル03-3272-8600  
<http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>